

2011年10月2日

「二種類の知恵」 ヤコブ3：13～18

I 神の先行する恵み。イエス様こそ、真の知恵があり、賢いお方であり、純真で、平和、寛容、温順なお方、また、あわれみと良い実に満ち、えこひいきがなく、みせかけのないお方です（：13、17）。この主が、主を信じる私たちの心におられ、私たちに対してそのように接して下さるお方です。まずこの恵みを覚え心から感謝しましょう。

II 私たちが主から離れている時の姿→私たちの心の中に、苦いねたみと敵対心がある。：14。秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがある。：16。主は、このような私たちの罪を負って十字架で身代わりに死んで下さった恵みを感謝しましょう。「苦い（冷酷な、つけんどんな、意地悪な）ねたみと敵対心」→神の御前での自分の分、ペースを忘れ、他の人と張り合おうとし、自分と人を比べるとき、ねたみが起きます。主の御前での自分の分、自分のペースをつかむことが大切です。「敵対心（原語：党派の歡心を買う、野心、競争心、党派心、利己心、我欲、争い、喧嘩好き、反抗心）」→この地上の知恵や知識が増す時、私たちは、自分と意見を異にする人に、すぐに敵対心を抱きやすくなります。それは、自分の主張こそいつも正しいという誇りがあるからです。「誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります」：14。知恵とは真理を知る事、すべての物事を神の視点で考え判断する事です（ローマ12：2）。真の知恵、真理は、人を誇らせません。真理は、自分自身の罪や醜さ、弱さを示して下さるからです。ねたみと敵対心を持ちながら自分の知恵を誇っているなら、表と心の中が矛盾しており、真理に逆らう偽善者となります。「そのような知恵は、上から（神から）来たものではなく、地に属し、悪霊に属するものです」：15。「ねたみや敵対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行いがあるからです」：16。私たちの神は、「混乱（この原語は、ここの秩序の「乱れ」と同じ語）の神ではなく、平和の神」（Iコリ14：33）です。ですから、この神の知恵が、秩序の乱れを生むはずがありません。「すべてのことを適切に、秩序をもって行いなさい」Iコリ14：40。ねたみ、敵対心、秩序の乱れの特徴＝①正常な判断が失われ、とにかく反対する。内心は、賛成であっても。②相手を理解しようとする思いが消える。距離と壁をますます作っていく。③闘争心、反抗心が心を支配し、交わり、関係は、正常な機能を発揮しなくなる。④敵対心の行き着く所は、相手の（意見ではなく人格、存在そのもの）否定であり、ついには相手を抹殺しようとする。そこにあるものは「あらゆる邪悪な行い」：16である。秩序が乱れるとき、そこに残るのは、それぞれの身勝手な行いだけです。私たちの心にも、これらの罪があります。主の十字架の恵みで赦され、御聖霊により、心がきよめられ、愛が満ちるように祈りましょう。

III 上からの知恵の特徴 1.「その知恵にふさわしい柔和な行いを、良い生き方によって示す」：13。最も知恵があられた主は「心優しく（：13の柔和と同じ語）、へりくだっている」（マタ11：29）方でした。自分に知恵や知識があると思いが上がっている人の特徴は、高慢であり、他の人に厳し過ぎたり、不寛容になったりすることです。自分の意見や行動を絶対化するところから分裂や争いが起こります。知恵が本物かどうかは、へりくだった心と生活でわかるのです。へりくだった人は、聞く耳のある人であり、知恵、正しい判断を身に着けていくのです。2.「上からの知恵（神からの知恵）」：17。

へりくだった人に神が与えて下さる知恵。①「純真」。潔白、清純、きよいの意。心の中にねたみ、敵対心がありながら自分を誇るような偽善のない心。悪い点はごまかさず認める誠実。聖い神を信じる者には、この聖さ、純真が与えられます。②「平和」。主を信じて自分の罪が赦されると、まず神との平和ができます。その平和は、自分との関係(神が受け入れられた自分を自分でも受け入れる=自己受容)、人との関係に影響を与えます。私たちの憎しみの心を、赦しと愛と平和(平安)の心に神が変えて下さるからです。神との関係が崩れていると、人との関係もガサガサしてきます。③「寛容」。広い心。すぐにかっとして怒らない。温和。争い好きでない柔和、優しさ。神は、神と交わる私たちにこの心を与えて下さるのです。④「温順」。他の人の話をよく聞いてあげる。自分の意見だけを無理に通そうとしない。⑤「あわれみと良い実」。他の人の悲しみや苦しみに共感し、寄り添う。その人々を慰めるために、相手に負担を与えないように配慮しつつ、真に助けとなる行為(良い実)をする。⑥「えこひいきがなく」。二心でなく、純粋。良い地位に就くために悪い策略を巡らしたりしない。人を地位、人種、見かけ、性別、能力等で差別しない。⑦「見せかけのないもの」。偽りのない。偽善のない。演じたふりをしない。誠実。表裏のない真実さ。3.「義の実(思いと行為が神のみことろと一致する実)を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます」：18。平和を作る人は、心にねたみや敵対心を持ってなくて、悪口、陰口、噂話を広めません。自分の所で止めます。口の自制を祈り求めます。すべてを御存じの神に祈り委ねます。関係の近い人の噂で、必要と導かれるなら、祈りつつ本人と交わります。曲がった噂ではなく、主を間においた交わりで真実を知り、信頼関係を養えるように。ある人を憎んでいるなら、神に正直に告白し、自分自身が、今日まで、どんなに大きな愛と寛容で神に愛され赦されてきたかを深く思い起こし心から感謝します。そして、祈ります。「あなたが私を愛し赦されたように私も人を愛し赦すことができますように」。また人生に必要な知恵、判断力、識別力が与えられるように祈りましょう。「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます」ヤコ1：